

【東大生座談会】

2

どんな「大学」・「学部」を「なぜ」目指すのか、
1年生の今から考えてみよう！



11月10日（金）、5名の現役東大生講師をキャンパスに迎えて「東大生座談会」が行われました。テーマは“どんな『大学』・『学部』を『なぜ』目指すのか？”です。参加したのは、1年生62名。彼・彼女たちは東大生とどのような会話を交わし、どのような気づきを得たのでしょうか？ 気になる座談会の様子をレポートします。

大学は文理に関係なく「やりたいこと」を学ぶ場所だ

「東大座談会」当日。教室には62名の1年生と現役東大生の布施川講師、永田講師、縹講師、多田講師、橋本講師ら5名が集まりました。現役東大生と対話できる貴重な機会ということで、みんな授業開始前からワクワクした表情を浮かべています。

冒頭、布施川講師からこんな質問が投げかけられました。

「みなさんは何を求めて大学に行きますか？」。

突然の問いかけに少し戸惑った様子の生徒たち。それでも周辺の生徒と話しながら、自分なりの答えを探しています。

そんな生徒たちの顔を見ながら、布施川講師はこう続けました。

「実は大学は、文系理系に関わらず、やりたいことを探究する場所です。それはどの学部に行っても同じなのです」。

布施川講師から、今日の座談会で大事にしてほしいことが伝えられます。

「東大生の話を一方向的に「聞く」のではなく、東大生の話ヒントに「考えて吸収する」時間にしてもらいたいです。自分で考えて知りたいことをどんどん質問してみましょう。」

さらに布施川講師はこう続けます。

単純に「教育」を学びたい、「心理学」を学びたい、と考えるだけでなく、それを学ぶ手段としてどの「大学」・「学部」が良いのかを考えることが大切なのです。

さらに、布施川講師はこう続けます。

「大学を選ぶ基準には、

- ・やりたいことを探しに行く
- ・今の自分から変わりたい
- ・大学で学びたいこと、やりたいことがある

という3つがあります。みなさんはどれに当てはまるのか、考えてみてください」。

みんなすでに思うところがあったのでしょうか。この問いに関しては、比較的すぐに答えが出たようです。布施川講師が挙手を求めると「学びたいこと、やりたいことがある」に多くの手が挙がりました。

その様子を見て嬉しそうな表情を浮かべつつ、布施川講師はこう続けます。

「みんな明確に目的があるみたいですね。それはとても良いことだと思います。今日この場に来ている東大生に積極的に質問をして、多くのことを吸収してみてください」。生徒たちも聞きたいことが多くあるようで、とても楽しみにしている様子でした。



いかに自分の「好き」に気づくかが学部選択のカギになる！

ここからは、現役東大生講師との座談会が始まります。

生徒たちは数名ごとのグループに分かれてスタンバイ。そこに5人の講師が順番に回り、生徒たちと対話していきます。

現役東大生を前に最初は少し緊張していた生徒たちですが、徐々に打ち解け、みんな積極的に質問を投げかけていきます。その内容は

「学部はどうやって決めたのか」

「大学生活はどんな感じなのか」

「高校時代、勉強時間はどうやって確保したのか」

「理系か文系かはどうやって決めたらいいのか」

など、今回のテーマである「大学」・「学部」の決め方から、効率的な受験勉強の方法、キャンパスライフへの質問までさまざま。

みんなきらきらと目を輝かせて、実体験に基づく東大生の話に聞き入っていました。

自分は何を学びたいのか、一生懸命に考えて欲しい

あっという間に時間は過ぎ、座談会は終了。最後は、興奮冷めやらぬ生徒たちに向けて、布施川講師からこんなメッセージが贈られました。

「みなさん、何となく『大学』・『学部』を決めるのではなく、しっかりと考えて、自分の意志で決めてください。今日ここに来ている東大生は、それができたから東大に合格できたのだと思います。みなさん一人ひとりの人生です。自分が何を学びたいのか、研究したいのか、今日の座談会からヒントを得て、ぜひ一生懸命に考えてください」。

生徒たちもこの布施川講師の熱のこもった言葉に胸を打たれたよう。大きな拍手を送っていました。

生徒たちにとっても実りが多かった「東大座談会」。短い時間ではありましたが、今回の授業は、間違いなく行きたい「大学」・「学部」について真剣に考えるきっかけをつくってくれたことでしょう。

彼・彼女たちが早い段階で自分の学びたいことを見つけ、それにふさわしい場所を目指せるよう、応援したいと思います。

